

(様式3)

【学校用】

## ふるさと教育 取組事例

<b>学校名</b>	安来市立能義小学校		
<b>学年</b>	<b>主な教科等</b>	<b>主に関わる単元名</b>	<b>活用した教育資源 (ひと・もの・こと)</b>
3	総合的な 学習の時間	どじょう博士になろう！	やすぎどじょうセンター 地域の生産農家
<b>ねらい</b>		地域の人・もの・ことに接することを通して、地域について知るとともに、地域に対する親しみと愛着をもち、地域を大切に思う気持ちを育てる。	

### 1 取組の概要

- 社会科の1学期の学習「市の様子」の学習において、安来市の特産品の一つに、どじょうがあることを知ったことや、地域に流れる川でどじょうを捕った体験等と関連させ、安来のどじょうについて興味・関心をもたせる。
- 隣接する校区にある「やすぎどじょうセンター」に出かけ、施設の見学をしたり、施設の方のお話を聞いたり、インタビューしたりする活動に取り組んだ。
- 地域のどじょう生産農家を訪問し、どじょう池や飼育の様子を見たり、日常の管理、お世話について話を聞いたりして、安来のどじょうについて理解を深めた。また、生産農家では、稚魚の放流体験もさせていただき、やすぎどじょうセンターで見た孵化したばかりの稚魚の大きさから、生産農家に届けられる大きさ、さらに出荷する直前のどじょうの大きさを見学や体験を通して、成長の過程を実感することができた。
- センター見学の際、どじょう（アルビノドジョウ）をいただき、教室で飼育し、どじょうの様子を日々観察し、お世話をしている。
- 学習活動のまとめとして、どじょうについてさらに知りたいことを調べるために、図書館の資料やインターネットで調べる活動に取り組んだ。一人一人、これまで学んだことや自分で調べて分かったこと等を新聞やリーフレットにまとめ完成させた。

### 2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

#### (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・やすぎどじょうセンターの見学では、長年の研究の成果で、安来のどじょうは、日本でも2番目に生産量が多く、安来から広く、全国に出荷していることを知った。先人の苦労や努力の成果として今の安来が日本有数のどじょうの産地になったという経緯を知ることを通して、どじょうが安来の特産品であることに誇りや愛着を感じることができた。学習活動を通して、安来のどじょうについてさらに知りたい、安来のどじょうをより多くの人に広めたいという思いをもち、地域の特産品についての理解が深まった。
- ・やすぎどじょうセンターの職員の方の「安来を代表するものを作って、安来のよさを日本中に広めていきたい。」「地域に貢献したい。」という思いや願いを聞くことを通して、子どもたちも地域の一員として、安来市の発展を願う意欲をもつことができた。

#### (学力育成の視点から)

- ・見学や話を聞く活動では、大事なことをメモしながら聞くことができる力。
- ・自分の興味をもったことを尋ねたり、自分の知りたい情報を聞き取ったりする力
- ・自分が興味をもち、調べたいことを、資料やインターネットから情報を得て、まとめる力。
- ・知ったことと自分の生活との関連をさせながら思考を深める力。

\*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)

### 3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

#### （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・地域の特産品にするため、これまで多くの失敗や努力が積み重ねられていたことを知り、これからの地域の特産品を大切にしようと思う気持ちをもつことができた。
- ・まとめた新聞やリーフレットから、今後、自分たちがより多くの人に安来のよいものを広めたいと、地域のことを自分の事として捉え、自分の思いや願いが書かれていた。地域の発展を願う意欲が表れていた。

#### （学力育成の視点から）

- ・自分が興味・関心をもったことについて、主体的に調べて学習を進めていこうとする力。
- ・学んだこと、分かったこと等を要点をとらえてまとめる思考力や表現力。
- ・センターからいただいたパンフレット資料や図書資料、インターネットから情報を読み取る力。

### 4 課題や今後の展望

- 本校では、昨年11月に島根県社会科教育研究大会（安来大会）が行われ、社会科、生活科を中心にした教科横断的な単元構想を考えるカリキュラムマネジメントに取り組んだ。教育活動全体の「年間単元配列表」を作成し関連した学習内容のものを線で結び、学習のつながりを大事にした学習活動を進めてきた。

総合的な学習においても、社会科や国語科、道徳科等、学校行事等と関連させながら取り組んだことで、子どもの学びがつながり、それぞれの学習活動へ意欲が高まり主体的に学習に取り組む姿が見られた。

ふるさと教育においても、ねらいやつきたい力を明確にして、教育活動全体からグランドデザインをし、意図的、計画的に取り組むことが大切になってくる。児童や地域の実態（ひと・もの・こと）から年度ごとの教育活動のPDCAサイクルで、よりよい教育活動にしていきたい。

- 地域コーディネーターが、今年度から配置されているが、十分活用できなかった。来年度は、年度始めに、ふるさと教育の各学年の年間計画をもとに、どのような活動ができるかを話し合い、充実したふるさと教育が進められるようにしていく。

#### <活動の様子写真>



\* 取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

（このデータを HP 等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。）